

いずみ会名簿60周年記念版より

鬼籍に入られた恩師の思い出

この原稿は、60周年記念事業の一つ「恩師情報の整備」の一環として、亡くなられた恩師の情報を、会員からの思い出として整備するものです。全会員への会報同封チラシを通じての呼びかけに加え、各期の評議員を中心とした300名近くの会員及び恩師の方々へ情報の提供をお願いしたところ、多くの思い出を頂きました。ご協力ありがとうございました。

紙面の都合で、一部、要約してご紹介させていただきました。(いずれ、ホームページにも掲載の予定ですが、その際には、原文に近い形で掲載することが出来ると思います。また、この記事内容についての訂正は、ホームページで補正したいと考えています。)

なお、この記事をご覧になり、「こんなこともあったよ」と思い出した方は、電子メールでいずみ会(izumikai@v7com)までお寄せください。コメントの間に合わなかった恩師については、お名前を掲載してありますので、どしどし、思い出をお寄せください。よろしく願いいたします。

【校長】

●室岡孝治先生

入学の時、「新設の中学へ良く来てくれた。この学校の伝統を作り、日本の将来を作るのは、君ら府立20中の第1期生だ」といわれたことを記憶している。包容力のある立派な校長先生でした。(中学1期)

体が大きく、柔道5段で保谷に住んでいた。(中学1期)

●両角英運先生

高校4期生(中学・高校で6年在学)には、先生より古株がいた。彼らは朝礼の時、やじることがあった。先生は、そのヤジをうまく取り込んで自分の話をされていたのには驚きました。この頃、オリンピックへ出場する猪谷選手に記念品のバックルを贈りました。朝霞の士官学校の教官(ベタキンのサカクラスだった)で失職していた河合、土電、佐々木先生たちを、住居と菜園は保証するからということで大泉に採用したとか。今のテニスコートのあたりは菜園だったと聞く。戦争中はグラウンドも畑だったそうです。(高校6期)

先生の栄転された時に入学したので、直接指導は受けていないが、今の大泉高校の繁栄を築いた先生と聞いています。良い先生を全国から集めたそうです。両角先生は、当時不足していた住居を、都と交渉して先生方のために用意され、多くの先生をお呼びしたそうです。(高校11期)

文武に長けた優秀な生徒が先生を頼り転入しています。大泉高校の英語教育に対してパーマー賞が与えられたのはこの時代でした。また、全国高等学校体育連盟(高体連)会長(白鷗高校校長時代)として、高校スポーツ発展に寄与されました。(恩師)

●清水安麿先生

書に秀でておられ、卒業証書の学生の名前を全部ご自分で書かれたそうです。尺八もお上手でした。(高校11期)

富浦(千葉県)の臨海学校を実施され、希望者からはじめ1年生の体育実習として定着し、全員皆水泳を実現されました。(それまでは、プールがなかったので、智山中学・現早稲田高等学院や学大付属大泉中学、石神

井高校のプールを借用し、班別にして指導を実施しました。)また、PTAの協力で榛名湖の山寮を建設され、冬のスケート教室や夏の高原学校(自由参加)を実施されました。(恩師)

円形校舎や、今はない榛名寮の建設に尽力されました。(恩師)

●小川定胆先生

九段高校の興津(外房)の寮での水泳実習を経験されていたので、1年全員の臨海学校を開始され、1年後富浦に変更して行ないました。指導者に日赤救助員と運動部OBやOGなどを動員して実施する臨海学校の基礎を作られました。(恩師)

●清水貞助先生

小柄でしたが、全校集会などで発言台に立たれたときなどは重みピリッ、容らある話をされていた。(高校18期)

独特の味のあるハイキートーンでの朝礼訓辞が思い出されます[預ヒまiま良く覚えているのですが、訓示内容までは残念ながら記憶に残っていません。でも、小柄ながらすごく存在感のある校長先生でした。(高校18期)

●所 弘先生

入学式で、「ただいま紹介されたところです」と言う挨拶で、会場の笑いを取ったのは今でも鮮明な記憶です。(高校20期)

●竹内乙吉先生

●平馬鉄雄先生

入学式で、『私の名前のでつおの「てつ」ですが、金を失う「鉄」ではなく、金偏に“矢”です』とおっしゃったことが今でも鮮明に残っています。(高校30期)

【教 頭】

●相川秀夫先生

1年生2学期、「クラスで、奥多摩にハイキングに行きたいのですが」と職員室の奥の教頭先生をたずねたら、重々しい声で「一体なんの為に行くのですか」と言われ、泣きそうになったことがありました。翌年、また行ったら、「また君ですか」とにっこりと許可の印鑑を押され、教科(物理)を持たれなくても、生徒の顔を覚えていらっしやるのだとびっくりしました。2年の狩場峠に続き、3年は、高水三山。「やあ」の一言と、気難しげな教頭先生の笑顔は、特別でした。同級の「相川君」を含め、4人のお子さんが大泉生であったことは、卒業後に知りました。(高校9期)

教頭として、清水、小川両校長を補佐され、大泉高校隆盛の基礎を作られ、臨海学校など生徒の先頭に立って指導されました。先生や生徒にも明るく包容力のある先生でした。(恩師)

●伊藤 静先生

担任で、漢文担当で非常に教え方の上手な先生でしたが、サボるとすごく厳しく、理解するまで教えられました。(中学1期)

「校友の歌」を作詩された先生。2学期から丹薫(英語)先生も担任になりました。(中学1期)

●高田善之先生

●森 杉多先生

二年で倫理を習った。同じクラスにいたN君が、目つきが悪いかなにかでにらまれ、教室から追い出されたことがあった。倫理は嫌いでした。(高校18期)

厳しくキリッとした感じの先生で、倫理を教えてもらいました。確か軍隊生活では、はや飯と、はや……が大切だと言っていた様な気がします。新設された全寮制の秋川高校に転出されましたね。(高校18期)

●田端久平先生

教頭先生でしたが、1年生の時に生物を教わりました。授業で発酵が出てきたときだったと思いますが、「私が理科室でドブロクを作っているので飲みに来なさい」と授業で堂々と言われたので驚きました。確かピーカーにそのドブロクが入っていたような記憶もありますが、これは定かではありません。(高校27期)

●坂上隆一先生

【国語科】

●河合秀夫先生

陸軍士官学校の名残があり授業中は怖い感じを受けた。常に背がピンとしてことが目に浮んでくる。しかし、国語の授業はきっちり教え込まれた。(高校5期)

●石上 堅先生

小柄の先生で、短い節の沢山ある竹の鞭を常に持ち、出来が悪い連中は頭をたたかれ、頭に瘤が節の数と同じだけできたことを思い出します。(中学1期)

丹・石上先生が担任でした。親は士族で藩の家老だと、よく話していました。出兵する丹先生への、はなむけの歌を送っていました。中島飛行機武蔵工場への勤労働員の際、爆撃を生徒より怖がっていました。(中学1期)

あだ名は、ガミ、いつも似合わない蝶ネクタイをしていた。授業で、黒板の文字をノートに写し、ガミさんの検閲？を受け、出来具合によって蝶ネクタイの丸印を押す。下が1個、中が2個、上が3個だが、3個もらえるのは、ガミさんの腰巾着だけ。いっそのこと自分でハンコを作って押そうかと思ったこともあった。腹が立った。(高校3期)

厳しい先生だったので、みんなで相談して、復讐を試みた。寒さのきらいなガミさんは、ダルマストーブのまわりをうろろろする癖がある。そこで石炭を沢山入れ、充滿したガスの爆発で驚かせたことがある。(高校10期)

巻では、「アンボ、ハンタイ」の大合唱が巻き起こり、アフリカ諸国が次々に独立していた。古文を教える石上先生の心は、記紀・万葉の時代に遊んでおられるように見えた。授業はおおらかで声高なところはないが、結構厳しく、「君たちの態度が悪いときには「出て行きなさい」と言うから、そうしたら教室を出なさい」と最初に言われ、緊張しました。教科書・出席簿と、スマイレ色の薄べったい座布団を持って教室にこられた。講義の最初が万葉集で、「石走る(いわはじる)垂水の上のさわらびの萌え出ずる春になりけるかも」というのと、当時の若き天皇が、野に出て春、若菜を摘む娘を見つけられ「名のらさね吾こそは……」と堂々と声をかけられるシーンの解説は迫力があつた。ボート部の私でもいまだに覚えている。「お前たちよ、こんな風に自然の中でプロポーズしなさい」、当時学校は、麦畑に囲まれており、桜並木の道を通学し、石神井公園の三宝

寺池や城跡から立ちのぼるオーラのようなものを感じていた我々

二とって心にしみた。校歌にもあるが、自然に恵まれた当時の環境を背景にした古文の先生らしい先生だった。感謝。（高校15期）

直接は教わっていないのですが、2つ下の妹が石上先生に教えていただいたので、間接的に知っています。民俗学者で、ご自身でも「石の伝説」という本を書かれており、その本は妹に見せてもらいました。迂闊なことに1浪をして通った予備校で、石上先生が折口門下の高名な学者であることを初めて知りました。（高校18期）

ループタイとカラーシャツというダンディーなお姿が記憶にあります。同先生が「イソノカミ神社」と発言されたのを記憶しておりますが、これは番外授業か何かだったのでしょうか。（高校18期）

1・2年生の時に古典を担当していただきました。一番強く印象に残っているのは「授業開始前に黒板をきれいにしておくように」との指示。特に、黒板拭きで拭き取った後に「拭きムラ」のないよう、完全にきれいにするように、とのこと。日直は、神経を使って黒板をきれいにしていました。「くがたち」の話など、民俗学的なお話しが強く記憶に残っています。また、とにかく「読んで書くように」という指導をなされていたと思いますし、また言霊を大切にされていたのではないかという印象が強く残っています。ただ、文法の授業がほとんどなく、3年になって大あわてしてしまいました……。私は水の環境に関わる仕事をしていますが、先生の「水の伝説」は時々同業者の中で話題になります。あの本は我々の在学中に刊行されたのではないのでしょうか。（高校18期）

1年の古文の授業を受けました。目には緑がいい。ノートをとる時は緑のインクを使えと言われ、文房具屋を何軒か回って探した記憶があります。緑以外では紫もいいということで紫を使っていた同級生もいました。緑のインクを使ったのは、後にも先にも、その時だけでした。そして、教科書の本文を緑か紫のインクで写して先生に見てもらおうといった授業でした。二学期にT君が富山県高岡の高校から転校してきた時に、「高岡のそばに氷見があるだろう。あそこはとても良いところだ。」とも話されました。社会人になってから氷見線のディーゼルカーに乗って、雨晴海岸の義経岩からの立山を眺めた時、先生の言葉を思い出しました。また「漢字の新字体はよくない。特に「恋」の字についてはそうだ。」と、とくとくと説明されました。旧字体「戀」は「いとしいとしいと言う心」をあらわしていると教えていただいたのは今でも鮮明に覚えています。先生の著書の「石の伝説」の話もよく聞きましたね。たしか大泉の二級上にはお嬢さんも在学されていて、授業中にもお嬢さんの話や国学院大学での師である民俗学者、折口信夫氏の話もよくでてきました。いつも、銀縁メガネ、カラーシャツにループタイという服装でした。（高校18期）

●青木 茂先生

●木下尚栄先生

●入山哲弥先生

1年生の秋の日には有志13名で、入山先生と正丸峠へ行きました。つるべ落としの秋の日の暮れるのは早く、歩いているうちに薄暗くなってしまいました。バスはなかなか来ないため、男子は駅まで月明かりの中を歩きました。駅で先生は、待っていてくれました。遅くなったことで父兄会でつるし上げられていたと後で聞き、先生に申し訳なく思いました。先生、リスクを負って色々やってくれてありがとうございます。（高校10期）

●志賀一朗先生

在学中の校長先生は、両角英運。清水安麿両先生。当時は、数十年にわたって大泉で教鞭をとられる先生方がほとんどで、いわゆる名物教師が多く、その綽名も卒業生から代々受け継がれ、漢詩を吟じると天下一品の「スダレ」先生の存在は有名でした。「国敗れて山河あり、城春にして草木深し」、杜甫や、李自の詩も、一旦志賀先生の詩吟を聞くと、いつのまにか暗記してしまうのでした。後年「湯島聖堂朗詠会」の会長をつとめられ、一方、中国思想史の大家として、文学博士号をうけられた先生の、当時の追求心が、私たちにも何かを予期させたのでしょうか。（高校9期）

3年の時の担任でした。最初みんなが「スダレ」と言っている意味がわかりませんでした。今なら育毛剤をプレゼントしたのに…… と思います。とにかくどの教室で授業をしているかすぐわかりました。それほど授業の時に「詩吟」をうなるからです。とても立派な声でした。私は大好きでした。なにしろ漢文の眠くなるような時間を大きな声で目覚めさせてくれるのですから……。色白でおだやかな大きな顔、おこることを知らないやさしい先生。（高校13期）

●橋本精一先生

二年の三学期に、Iさん、Oさん、I君と一緒に池袋から都電に乗って、文化放送だったと思いますが銀座あたりのラジオ局に橋本先生に引率されていきました。前田武彦さんのディスクジョッキー番組に出ました。番組名は「ヤングヤング」という名前であったような気がします。狭いスタジオでした。I君とIさんがよくしゃべっていましたね。終わったあと喫茶店で先生と四人でいろいろ話しあいました。懐かしい思い出です。（高校18期）

臨海学校では、なくてはならない存在。遠泳の時、護衛してくれる和舟を漕げる唯一の先生でしたから。（高校11期）

●堀江徳宝先生

源氏物語の音読が印象に残っています。同物語 第1部 12帖 須磨 13帖 明石 だと思いますが、意味が理解できなくても繰り返し音読しなさいとの先生の教を珍しく守ったお陰か、“恋”の意味するところの入り口を覗けた気分になりました。放課後、円形校舎の図書室で同物語をこっそり読んだものです。（高校18期）

二年一組は習ったはずです。おっしゃることは難解でした。はっきりいって私の成績も悪く、つきあいづらかった思い出があります。難しいことを言われたあと「…なんて難しいことをボクは知っているよねー」とよくニコッとされたのを覚えています。（高校18期）

いろいろと調べさせる宿題が多かった記憶があります。私は「北村透谷？」を調べることになり、円形図書館で百科事典を丸写しして発表したのに、叱られずにかえってよく調べたといわれ、ホットした覚えがあります。（高校18期）

古文をお習いした堀江先生は、その頃から何となくおじいちゃん先生というような風貌のやさしい先生でした。くわしい情況は忘れましたが、それまでの希望大学の受験をやめ、お茶大の音楽科を受験することに決めたときに、お茶大の入試には作文があり、字数制限のある中で、要点をまとめるのが私には難しく、先生が特訓をして下さいました。先生がテーマを出されて、それについて書いた私の文章を、添削して下さいました。うまく書けず、たくさん直されて、先生の前で涙したこともありました。その後、大学入学後も、と

きどき大泉の先生のお宅に伺って、色々なおしゃべりもさせて頂きました。そんな時には、先生も優秀な息子さんの自漫話をされることがありました。また美しいお嬢さまの結婚式で、ショパンのノクターンか何かピアノをひかせて頂いたこともありました。その後は先生も千葉の方へ転居され、また、私も夫の転勤などもあり、お年賀状をお出しするだけで、お目にかかることもなかったのですが、先生がご病気で静養中と伺ったので、お手紙をさしあげたところ、「頑張ったおかげで、できていたガンもほとんどなくなったのですよ」と嬉しいお返事でしたので、私も安堵したのですが、それから半年位してからお電話いたしましたら、すでに亡くなられていました。(2000年の2月)私の父が亡くなった日と一週間位しか違いませんでした。私にとって堀江先生は父のような祖父のような、そんなやさしい方でした。(高校18期)

授業を受けたことはありませんが、朝礼の時に芥川龍之介の文章を引用して「あせってはいけません」と言われて、上級生が拍手喝采していたのを覚えています。(高校18期)

●森山重雄先生

●米山忠雄先生

●芹川正虎先生

1960年(昭和35年)、私が入学した年の世の中は「アンポハンタイ」の余波で騒然としていたのだが、大泉高校は全く静かだった。檜、栗、クヌギ、柏木や麦畑に囲まれ、私は走り回っていた。先生からは、古文、現代文を教わりました。当時の体育会系で年中空腹の育ち盛りだった我々にとって、能の世阿弥とか谷崎潤一郎は、わかる生徒はもちろんいたが、理解を超えていた。ピンとシンクロした奴もいたが、「耽美派」とか「唯美論」と言われてもピンと来る訳もないが、「春琴抄」などを教わった。一度国語のテストの具合が良く、誉められた記憶があるが、継続しなかった。「能」にご堪能で、いつか先生のご自宅に仲間とお伺いしたら、部屋の壁一面に文学関係の本が並び、圧倒されたのを覚えている。学者というのは、こういう生活をしておられるのかと感心し、木立に囲まれた井戸のあるお住まいや、和服でニコニコしておられた先生を久しぶりに思い出し感謝している。(高校15期)

国語の時間「この、濡れ場というのはどんな意味かね、おいS君」と当てられ「わかりません」と答えた。あれは嫌味な質問だったなあ。(高校15期)

一年一組は先生に、現代国語を教えていただきました。体格のがっちりした先生でした。入学早々、詩の解釈で難しいことを言われさっぱりわかりませんでした。私の前に座っていたMさんが「あたし、わからない!」と自分で自分に質問してきたのですが、こちらもわからず「I君は国語が得意そうだから……」と自分で他人にフッてしまいました。聞かれたI君も黙っているばかりで言葉がでない。全く、入学したての頃は、勉強も人間関係も手探りの状態でした。(高校18期)

【社会科】

●佐々木望先生

朝霞の士官学校(教官)時代に、爆弾が、柳沢のガスタンクの近くに投下されたときも教壇に立っていた。GHQが戦後直ぐ状況を調べに来たと言っていました。また、投下地点からの爆風は皇居に及ばない距離にあったという話をしていました。(高校10期)

ラグビー部顧問でもありました。古代から奈良時代までで2学期も終わり、平安以降は独習。東西文明の関

連など、黒板に正倉院の壁画(多色)を描き我々の関心を引き出す授業は、5組以外からも生徒が聴講に来るほど面白いものでした。“遣隋使の意義について”記述せよとの試験問題は今でも覚えています。お亡くなりになった時、海外出張中でしたので、帰国の翌日、東久留米のお宅に弔間に伺い、帰路先生の好物だった「爛酒+板わさ+ざる蕎麦」を賞味しつつ先生を偲んだことは、ついこの間のようですが、もう16年も音のことになりました。(高校18期)

野武士のような風貌で、板書を一切しないのです。教科書に赤線を入れながらの説明は、独特のものでありました。駿台予備校で日本史を教えているということが、なぜか尊敬の対象でした。(高校20期)

●小山保郎先生

●島田 尚先生

●森田康之助先生

あだ名は、出っ歯。修学旅行で福島県東山温泉か土湯温泉での出来事、何人かで火鉢を囲みタバコを楽しんでいるところへ、先生の来襲!あわてて吸殻を灰の中へ。なんとかごまかした。しかし先生は火箸で灰を突っつきながら長話、いつ吸殻が顔を出すやらひやひや、ひとつひとつと短くなったのが出てくるわ出てくるわ!!でも先生、何もなかったような顔をして退出。卒業後同窓会でお会いした時「判ってたよ」の一言で嬉しく深く反省。(高校3期)

●相羽玲三先生

歴史担当の先生です。独特のアクセントの先生で、小柄で面倒を良く見てくれる方でした。(中学1期)ニックネームは、相羽行進曲。仙台の三高から東大を出られた新任の先生。身体は小さいが柔道をしていた。耳たこがあった。(中学1期)

●大越先生

地理担当で、昭和16年4月から昭和18年12月頃までいらした。日光強行軍事行事の後、過労のため逝去されました。温厚な先生でした。(中学1期)

【数学科】

●松吉利夫先生

エルガーの「威風堂々」という行進曲を聴くと、必ず毅然とし堂々とした教壇での松吉先生を思い出します。「高校は勉強するために入学したのだから、勉強に情熱を燃やしてほしい。」と言われ、その一方で「クラス全員が気持ちをそろえて教室の空気を盛り上げてほしい。」とも。学級の和を考えて、夏には湘南海岸へ、秋にはハイキングへと連れて行って下さいました。厳しさの中に暖かさを持った先生でした。文系志望で受験科目ではなかったのに、松吉学級に入りたいがために苦手な解析Ⅱを選択したのは、私だけではありませんでした。卒業後五十年近くたった今になっても、松吉先生は指導力、誠実さ、温かさ、教育に対する情熱に温れた理想の先生だったと思っています。(高8期)

数学の授業のほか、テニス部の顧問として部員の指導にも熱心で、全国大会で活躍した都立高校代表選手として大城選手など多数の部員を養成されました。(恩師)

東京体連軟式テニス部長、テニス部を何回も全国大会に導かれました。戦時中、学生時代に暗号の解説をされていたとか、明晰な頭脳の持ち主でした。(恩師)

●青木元忠先生

マージャンが大好きな先生だったと伺っております。先生のホラ話は半分にしても楽しいものでした。
(中学2期)

●櫻井隆道先生

●土屋正夫先生

三角定規で頭をコツンとされた。厳しい数学でしたが、先生がお書きになった参考書も購入し、中学から高校での数学の違いを知り、勉強した気分になりました。(高校5期)

下駄登校禁止の時代だった。運動部の人、主にホウバで登校し、部室で古タイヤのぞうりに履き替え教室に向かう。先生は、熱心の下駄出勤を取り締まっており、やむなくスパイクで渡り廊下まで行ったことがある。(高校10期)

入学して最初の数学の先生だった。1年の時、先生は既に中年で、声は大きく大変厳格な先生でした。ある日雑談していたら突然チョークを投げられ、凄く怒られました。最も印象に残っているのは、幾何学の授業で三段論法を英文でソクラテスの言葉として教えて頂いたことです。それは、Man is mortal. Socrates is man. Therefore Socrates is mortal(人は死すべきものである。ソクラテスは人間である。よってソクラテスは死すべきものである。)英語が好きだった私には、英文で板書し何度も読まれていたこの文章は、永遠に忘れられない思い出となっている。(高校13期)

●細川 猛先生

語学にも熱心な先生で、在任中、半年間フランスへ教育視察留学をされました。帰国後あまりその話を聞く機会がなかったのは残念です。(恩師)

●本田正俊先生

タバコが好きで良くけむりをくゆらせていた。教壇に立つ前は、小河内ダムの測量もやったことがあると聞いていました。(高校11期)

通常の授業では習いませんでした。3年の夏休みの補修で数学の問題集について解説をしてもらいましたよどみなく問題を解説され、よくできる先生だなという印象を持っています。「理系の人は現役で入らないと将来伸びないよ!」と恐ろしいハツパをかけられたことを覚えています。(高校18期)

おじいちゃん先生と自分でも言っていましたが、当時何歳だったんですかね。現在の教育指導要綱に載っていないが、これから重要になるといって、枠外で「ベクトル」を教えてくださいました。ベクトルで物理の問題を解いたら物理の先生に無視されたのを覚えています。当時の指導要綱に載っている解き方より、ベクトルを使うと簡単に解けたのになあ〜。頭の固いやつだと思いました。この記憶は本田先生が作ってくれたものです。(高校18期)

●高橋市郎先生

コンチャンと言うあだ名がぴったりの先生。首を振りながら口に泡を溜めての熱弁が印象的でした。本田先生の囲碁仲間だったそうです。(中学2期)

●幸田泰伸先生

2年のホームルーム合宿で大島に宿泊した時、夜遅くまで話をしたい生徒達の味方をして下さって、他のクラスの先生や生徒達に迷惑をかけないならと大目に見て頂いた事が一番の思い出です。幸田先生の

クラスでよかったと誇りに思ったものです。他の担任の先生方とその事でひと悶着あったと、後で聞きました。いつも私達の良き理解者でした。(高校31期)

入院されていた病院で、同じく入院していた子供達にロビーで算数を教えてあげたら、それから毎日、ロビーが寺子屋のようになったと嬉しそうにお話されていました。生涯すばらしい先生でした。(高校31期)

【理 科】

●乙黒 功先生

学生時代に塩酸？を吸ってしまったと話され、実験時には注意するように話されていたと思います。(高校18期)

化学の先生ですが、1年のとき地学のなかの「天文」を教えてくださいました。先生のトレードマークは「音さ」のイラストで、プリントには必ず入れていました。ことあるごとに前任の国立高校の自慢話をされていました。当時、国高は格下と思って聞いていましたが、今じゃ大逆転です。通称「音さん」、温かな人柄でした。(高校20期)

●花崎文一先生

あだ名は、ハナブン。生徒を捕まえては、「お前の姉さん綺麗か」が口癖。嫌味はなかった。(高校3期)あまり記憶がないが、卒業してから、同期会に出席されて、色々と幅の広い話をされ、勉強になったつもりでしたが、20年もたつと、ホントかなと思ひ出します。(高校5期)

大泉から、小山高専の教授、帝京大薬学部教授を歴任されたそうです。文理大を次席で卒業された秀才。変人のなせるわざで、医科歯科大で学位をとられています。大泉をこよなく愛した好奇心旺盛な先生で、退職後自転車で江古田の町を徘徊していました。江古田斎場での葬儀の時、ラマ教のテープが流れていました。奥さんが「皆さんに大変お世話になりました」と挨拶されましたが、とても面白い愛すべき先生でした。(高校6期)

プール建設を熱望していた先生は、ゴム草履でグラウンドに降りた生徒から1人10円を徴収し、資金にするとあってました。当時あちこちに渡り廊下があり、上履きで出やすい環境だった。(高校10期)

授業は全く習いませんでした。ただ、お宅が開三中のそばにあり、卒業後も最近までよくお見かけしました。浴衣を着て自転車に乗っておられたりして、私が会釈をすると丁寧に挨拶を返されました。(高校18期)

高3の終わりごろ、「あきらめることが大事」と話されました。みんなが苦笑していると、あきらめるとは、明らかにすることだとおっしゃいました。わからないところをあきらかにし、さまざまなことを論理的に理解し、整理整頓することが大事だとおっしゃったことだけ覚えてます。(高校18期)

一年の時に地学、二、三年で物理を習った。地学の時間に、先生が「地球が自転しているというが、なぜそれが分かるのか」と質問した。T君が手を挙げて、「星が回っていることから分かる」と答えたら、先生は即座に「星が回っていたらどうするのか」と反論し、T君初め生徒一同、返答に窮した。答えは「コリオリの力」と「フーコーの振り子」だった。「コリオリの力はなかなか実感できなかった。教育用の映画で実験を見せてもらったが、それでもピンと来なかった。実際に実験したのだろうか？先生も「コリオリの力の話を聞いていると、頭がコリオリになってしまう」と言われた。「フーコーの振り子」は、先生が回転板の上で振り子を振らせてみた。これには驚いた。上野の科学博物館の「フーコーの振り子」を見に行ったりもした。物理の時間には、「自分

と電気(確か、電気だったはず)とどちらが速いか」という質問を出された。教室の入口にある電気のスイッチを入れると同時に、先生は教壇に駆け上る。蛍光灯が教壇の真上にあつて、それが点灯すると、自分が教壇に上がったのとどっちが早いか、というわけだ。皆、笑った。しかし先生は何度も繰り返す。われわれはますます笑ったが、先生は大まじめだった。その時に先生が何を答えとしたか、忘れてしまったが、先生は、電子の速さと自分の速さを比較させたのではないだろうか。電子の「ミリミリした」動きと、自分の動きを比べさせる――。(その理解であっているのだろうか?今でも自信がない)この二つのどちらの授業だったか、先生は「迷信」と大きく板書して、科学は迷信では駄目なのだと話された。とても大切なことを教えていただいた。先生には、お詫びしなければいけないこともある。二年の時だったろうか、先生が責任者で作っていた10チャンネルの教育番組に、引っ張り出された。「放物線」についての番組だった。番組途中のコマーシャルの後は、私の発言から番組が再開されるシナリオだったが、私が忘れてしまって、番組が30秒間無言で過ぎた。その部分は「ナマ」放送だったのだ。そのため番組の最後のコマーシャルが、30秒カットされた。10チャンネルは30秒分の料金を、スポンサーに支払わなければならない。その分、番組担当者(10チャンネルの社員)が賃金カットされる。先生から「お前は分かっているような顔をしているが、何も分かっていない!」とカミナリを落とされた。番組担当者の方や先生に、今でも申し訳なく思っている。この経験は、人生の戒めになっている。本当にお世話になりました。(高校18期)

1年10組で地学の授業を受けました。「地球は本当に自転しているのか、説明しろ」と言われ、難儀しました。正解はフーコーの振り子だったようですが、また、「なぜ台風の進路は曲がるのか」「なぜ台風の進みで風向きが変わっていくのか」とか、「東側と西側で強風範囲が異なるのか」とか、難問を連発されますが、簡単な実験で種明しをしていただいて面白い授業でした。花崎先生も、いつも、カラーシャツにループタイという服装でした。男子に厳しく、女子に甘い感じだったと思います。でも今となって考えると先生の厳しさは本質を追求する姿勢を教えられたようで有り難いと思っています。トテシヤンの原理という言葉も耳に残っています。シヤンはドイツ語で「美人」でトテは日本語で「とてもJ」という意味だそうで、美人に男性が群がるという意味だったのでしょ。正確には覚えていませんが。(高校18期)

●松井慶次先生

生物の先生と言うよりも、荒れた校庭の地ならし作業の指導をされていました。広大な校庭は余す所のない教材だったのでしょ。(中学2期)

●御子柴栄一先生

化学を教わりました。中学の先生から変わられたということで、丁寧に教えていただきました。地学で受験する生徒が二人しかいないので、地学の問題を手書きで作ってもらいました。感謝しています。(高校20期)

●石井忠吉先生

●佐藤 正先生

入学試験の時の監督をされていました。試験の途中で、「問題が難しく、調子を狂わされているかもしれませんが頑張ってください」とおっしゃられていました。試験監督らしくない突然のご発言だったのでよく覚えています。大泉の先生のいわば“生の声”を聞いた最初の瞬間であり、“ひょっとするとこの高校はいい高校かも知れない”と同時に思いました。一年一組は地学を教わったはずです。授業はとにかく眠かった

(高校18期)

地学でしたね。授業は眠かった。先生は時々、窓の外を見て話す癖があった様に思います。授業内容より先生の仕草が妙に記憶に残っています。(高校18期)

地学の時間の冒頭に「私は物理が専門で、地学は……」と仰っていたのが印象に残っています。中学までの先生には考えられない一言だったと思うのですが、正直さ、誠実さを感じさせる一言だったと思います。(高校18期)

1年6組で地学を教えていただきました。お名前どおりのきちんとした先生で、少し訛りがおありだったように思います。いつも白衣で姿勢が良く、どちらかと言えば厳しい印象でしたが、笑顔はとても優しくて、かわいい感じでした。後頭部がまっすぐでいらしたので、失礼ながら「絶壁」と呼ばせていただいておりました。地学は憶えていませんが、懐かしい先生のお一人です。(高校18期)

顧問の佐藤先生には物理部でいろいろご指導いただき、お世話になりました。授業で用いる実験装置のテスト、あるいは、生徒がうまく実験できるかどうかの“実験台”を、先生の手ほどきでやったことを思い出します。電鈴と紙テープを使った手作りの装置で重力の加速度を測定したと思いますが、当時、どこまで私が理解したかは定かではありません。佐藤先生を始めとする理科の先生方のご努力に敬意を表します。このような教育の工夫は、現代の高校生の理科離れ問題解決にとっても有効だと思います。私はおかげ様で物理に興味をもち、今も関係の仕事が続いています。(高校18期)

2年5組で物理の授業を受けました。授業の思い出ではありませんが、1年の夏、上総興津の臨海学校で朝食の後、将棋をしていて集合時間までにケリがつかずにグズグズしていたら、「何をしとるか、ばかものJ」と一喝されたのを覚えています。高校時代で経験した中で一番厳しい叱責でした。授業のほうは、なかなか丁寧だったと思います。力学で加速度一定の運動方程式の説明がありましたが、加速度が一定という前提がどうしても納得できず、先生に食い下がった記憶が残っています。最後に微分を使えばいいのだが、ただ数学の進度と合っていないので物理では微分を使えないと言われました。また、10円硬貨と同じ大きさの紙と10円硬貨とを重ねて、紙を上にした時と、紙を下にした時で落ちか否かという実験も興味深いものでした。(高校18期)

●中村治幸先生 H4 429逝去

【保健体育科】

●工藤信雄先生

体育教師として、我々9期が1年生(1954年)の時、大泉高校に赴任してきた。半世紀も音の話で記憶は定かではないが、小生にとって開進第二中学校3年生のときの担任であり、そして大泉高校2年のときの担任でもあったから、時期としては間違いないと思う。先生のエピソードは東北地方出身だったので「キ」を「チ」と発音することで、体育の講義の授業でたびたび出てくる「筋肉」が「チンニク」になってしまうことである。そのため中学の同窓会は「チンニク会」として、先生亡き後も50数年間、毎年開催している。先生は戦後の日本柔道界のリーダーとして日本講道館の要職に就き、今日の日本柔道の隆盛と、大泉高校に赴任して数年後、文部省から柔道普及のためスイスに派遣され、柔道を世界のスポーツへと発展させる礎を築き上げた。講道館九段、柔道に関する著書も多数。(高校9期)

「チンニクJ先生の奥さんは美人だった。奥さんを獲得するため、一生懸命勉強したと言っていました。(高校11期)

歩き方とスタイルが格好良く、颯爽とされていたと記憶します。(高校18期)

柔道が専門で、東京オリンピックの柔道会場で試合のアナウンスをされていました。寝技や柔道体操を教わりましたが、先生の柔道着がいつも真っ白だったことが印象に残っています。(高校18期)

柔道部員であった私には、工藤先生に関してはいろいろと話がありますが、ありすぎるので別の機会に。なお、工藤先生を偲ぶ会というのを毎年12月29日に開催し、工藤先生に柔道を教えてもらったメンバーが集まり飲み会をやっています。(高校18期)

U君、S君たちと同様、小生も柔道部に在籍しておりましたので、工藤先生にはお世話になりました。講道館師範で当時も7段くらいだったと記憶していますが、目鼻立ちの整った、ハンサムな中にも、武士のような厳しいお顔で、柔道や体育のご指導をされていました。(高校18期)

背が高い、カッコいい柔道の先生ですよ。生徒の中でも一際体格のよいK君が、面白いように転がされていたのをよく覚えています。あの強そうなK君がこうも簡単に立ち上がる暇もなく転がされ続けるのを見て柔道ってすごい技だ!と思ったものでした。(高校18期)

1年から3年まで授業を受けました。やはり専門の柔道で受け身を丁寧に教えていただいた思い出があります。また、ラグビーの授業では、タックルで倒れてからよく“ノット・リリース・ザ・ボール”のペナルティを取られたのも覚えています。当時はルール不勉強で、ボールをしっかり離さず掴んでいまして、何故ファールになったかがよくわかりませんでした。(高校18期)

1・3年時の担任で、かなり年配の先生でしたので近寄りがたく、気軽に話すことはできませんでした。2、3年前実家に帰った際、高校1年の時の先生から母へのハガキ「7月の臨海学校から息子さんを無事帰宅させますから安心して待っていてください」と言う文面を見て、母1人子1人の家庭を気遣う文面は、先生の優しさが現れており、当時全く感じなかった自分を恥ずかしく思いました。(高校27期)

●野沢要介先生

元気のかたまりのような先生で、何回なぐられたか判りませんが、あまりにも有名な方で、今でも語り継がれていると思います。とにかく鍛えられました。それだけに面倒見が良く、今思えば生徒一人一人の性格を良く理解して指導してくれたためずらい先生だと思います。反面、卒業生の中には先生に対するアレルギーを起こした人が数名いると聞いています。(中学1期)

植木、野沢の両先生から、徹底的に絞られた。(中学1期)

黒パンのあだ名で頑張っておられた。体操はどうだったかな?(高校5期)

●高橋健夫先生

平成10年11月4日逝去、昭和26年4月から昭和27年3月まで在職し、高校4期から6期までを担当されました。(恩師)

【英語科】

●犬飼基義先生

言葉の説明の後、「・・・ですねJと付け加えるくせのある先生で、スネイクとあだ名していました。(中学2

期)

高校最初の、英語の授業の時である。犬飼先生は教室に入ると挨拶もそこそこに、「君たち、この英語の意味が分かるかね」といって黒板に書いたのが、例の(To be to be ten made to be)であった。単語はみんな知っているが、文章の意味は分からずにいると、先生は「飛べ、飛べ、天まで飛べ」だよといつて笑われた。この最初の授業が中学生の時には好きでも嫌いでもなかった英語に興味を持つきっかけとなった。先生は授業でことあるごとに、英語を学ぶのには教科書を声を出して暗記するくらい何回も読めといっておられたが、物は試しと先生の言われるようにやってみて驚いた。英語の成績が格段に良くなったではないか。そのため益々英語に興味を持つようになり、シャーロック・ホームズの本を買って読むようにもなった。お陰でこと英語に関しては入試でも特別な勉強はしなかったが、あまり苦労したことはなかったと記憶している。今でも高校1年の教科書の、最初のページを憶えている次第である。社会人になってからは、英語を活用する職場には恵まれなかったが、英語(語学全般)に対する興味を呼び起こし、良い勉強法を教えてくださいました先生に感謝しております。今でも語学に対する興味を持ち続けており、現在NHKのフランス語講座に耳を傾けております。(高校9期)

受験を強く意識し始めたころに、犬飼先生に英語を教えてくださいいただき本当にありがたく、また懐かしさで一杯です。授業で何か先生が冗談のつもりで言われたことを真剣に考え、家に帰り、父親に確認したことなどが思い出されます。安らかに、あちらでも教鞭をとって下さい。(高校9期)

●大里 忠先生

大変まじめな担任の先生。この文章を書くに当たり、数人の級友に聞いたところ、「本当のことを書いたら」とアドバイスされた。何たって「デクテーション」だろうな！なるほどと思った。あんまり面白くなかったよな！受験の選択科目によるクラス編成だったためだろうか、基本的な教科以外はクラスがばらばらになることが多く、学園祭・運動会など、まとまって活動した記憶がない。女の子が7名で少なかったよな！目をかけているやつには、言葉をかけるが、目立ったやつは、結構、徹底的にマークされて苛められたらしい。目立っていたI君は呼びつけられて、「お前はキチンと出席してだまって座っていればよし。何もなくてもヨロシイ！」やはり少々目立ったM君も呼びつけられて、コテンパンに怒られたそうだ。学生運動に参加したI君は、父親も一緒に呼びつけられ怒られた。あまり目立たない、そして成績もほどほどの小生を含む面々は、無視されたと表現する者もいる。自分は、何もいわれたことはない、誉められた話しは全く聞こえてこない。女子生徒からは聞いていないが、どうだったのか？多分皆良い子だったので、誉められていたのだろう。最後に先生の名誉のために触れるが、両角校長が引き抜いた期待の星の1人でした。

(高校6期)

2年の英語の時間、先生は廊下側の前から順々に当てていく。できないと次々に立たせる。誰か出来ると、立っていた人は座ることができる。判らない時は、立たされる前に自主的に立つ生徒もいた。受験科目に英語の試験がなかった時代で、問題によってはクラス全員が立った場合もあった。坊主にくけりや袈裟まで憎いではなく、我々は英語が嫌いだけで、決して先生は嫌いではなかった。(高校10期)

●進藤福一先生

●川島栄二先生

●杉田豊子先生

先生は、列ごとに当てていった。先生が好きな列は良く当たった。できないと「ネクストプリーズ」と言って次へいった。できない男子生徒は、立っていた。今でも「ネクストプリーズ」は覚えています。(高校11期)

一年一組は習ったはずです。入学早々授業前に私どもが騒いでいたところ「今年は競争率が低いせいaka程度も低いようね」と開ロ一番に言われました。それが授業の最初の言葉でした。そのとき、やや短めのフレアースカートの裾が風でゆらめいていたことをやけに覚えています。先生にはリーダー(教科書は旺文社)を教わりました。先生の授業は、生徒に次々と質問をしながら進めてゆくスタイルで、テンポが良かった様に覚えています。私は多少できたせいaka、いつも一番最後に難しい質問をぶつけられる役回りで、そのため授業中はずっと緊張しており、先生の授業の後はずっと疲れました。おかげで、英語はよく予習をしていました。(高校18期)

教えることに一生懸命で、こちらも努力すると良く褒めてくださったことを覚えています。副教材で使われた「ドリトル先生」はその後、映画等でもブレイクしましたが、あのニックネームで呼ばれた動物たちが懐かしく思い出されます。良いテキストでした。私もあやかってそのニックネームで呼ばれたりして…(高校18期)

ストマイ(高音)難聴の為、子音の多い語学はいくら音を大きくさせても聞き取ることが出来ず、順番に質問されてもいつも私のところでストップ。辛く、ある日先生にその旨を泣きながら相談すると、「わかりました。貴女がわかった時はいつでも手を上げなさい。私からは指しませんから」と。胃が痛くなるほど恐怖だった英語の授業が、その日からどんなに気が楽になったことでしょう。私にとって、とても理解ある先生でした。(高校18期)

1年10組でリーダーの授業を受けました。度の強い眼鏡をかけて、いつもスーツ姿で教壇の上でちょっと斜めにたってリーダーを読んでおられた姿は今でも覚えています。非常に真面目な先生であられた印象があります。(高校18期)

1時間目の授業をよく遅刻されました。豊島園行きに間違っ乗ったためです。一度大声で度重なる遅刻を謝れというと、とても恐縮された声で、ごめんなさいと言われました。今ではとても申し訳なく思っています。(高校27期)

●土屋尚夫先生

先生には3年1組で教えていただきました。都会的なセンスのいい先生で人気があり、女子の4～5人のグループで、長文読解の指導をお願いしたところ、引き受けてくださいました。テキストはエドガー・アラン・ポーの短編集や、ヘミングウェイの「武器よさらば」で、速読の訓練が中心でした。今でも、ポーの「大渦巻き」のシーンや、「武器よさらば」の格調のある書き出しなどが浮かんできます。私はあまり熱心な生徒ではありませんでしたが、当時2年生だった妹の担任であられ、妹に私のことをほめてくださっていると聞いて、嬉しかったものです。後になって役に立った勉強で、とても感謝しています。どういうきっかけでしたか山に連れて行ってくださることになり、大学生になってから、同じ勉強の仲間だったMさんと、私の弟と、私と、4人で、蓼科山に登ったことがあります。私は高い山が初めてで、ダケカンパの林やキスゲのお花畑などに、ただ感動しました。山小屋で作った夕食のカレーとサラダを、「こんなにうまいご飯を山で食べたことはないJと言ってくださったのも、今思えば先生のサービスだったのでしょか。授業中だったと思いますが、

奥様のお誕生日か何かのときのプレゼントに、オーダーメイドの手袋を作らせたと聞きました。そんなことを聞いたことがなかったので驚きましたが、奥様思いの優しいお人柄が印象に残る話でした。妹のクラスには先生のファンがいて、卒業後も長くお付き合いしていたようです。亡くなられたと聞いて、長くご連絡もしていなかったことを悔いました。(高校18期)

●森二重雄先生

●大久保俊男先生

授業の内容よりも、映画通だったことを思い出します。(高校21期)

TVの受験講座にも出演されていた大久保先生。2年生のとき、課内クラブ「時事英語研究」で毎週1対1で講義をしていただきました。まるで、大学の一般教養の授業のようで、大いに力がつきました。(高校30期)

●榊原伍一先生

米国等と戦争になり、英語は不用といわれる中、「敵を知ろためには相手の言語を知る必要がある」とよく言われていました。(中学1期)

●茂庭鉄夫先生

●丹 薫先生

植木、野沢先生から絞られた反面、丹先生が優し(カバーしてくれた)。英語が好きになった。(中学1期)
中学1年の2学期から、仙台の三高から東大を出た新任の丹先生が担任になった(中学1期)

生徒に人気があり、教え方がうまかった。(中学1期)

【芸術科】

●村井不口夫先生

【教練科】

●植木先生

昭和16年4月から昭和19年、陸軍少尉で退任した先生で、野沢先生と甲乙付けがたい厳しい先生でした。昭和19年始めに招集され、サイパン島で玉砕戦死されました。一生懸命指導してくれたことを思い出します。(中学1期)